

全国学力学習状況調査の結果について

平成31年度の全国学力学習状況調査は4月18日（木）に小学校5年生と中学校3年生を対象に全国の小中学校で実施されました。本年度は「国語」「数学」「英語」に関する問題と、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。調査の目的は、生徒の学力や学習状況調査を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導等に役立てることです。

本校の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者・地域の皆様にもお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきたいと思っております。

1 本校の状況

国語と数学においてはA問題（知識に関する問題）とB問題（活用に関する問題）からなりたっている。英語については「聞くこと・読むこと・書くこと」と「話すこと」を併せた問題である。

本校の平均正答率は、国語、数学、英語ともに全国・山梨県の平均正答率を下回っている。国語と英語については有意差の範囲であるが、数学については明らかな学力不足を表す結果となった。また、英語の「話すこと」については全国平均を大きく上回る結果であった。

	国語	数学	英語	英語話すこと
山梨県平均正答率	75	60	55	—
全国平均正答率	72.8	59.8	56.0	30.8

2 各教科の結果から

（1）国語

全体の結果から見ていくと、正答率の傾向として山梨県や全国とほぼ同等の数値となっていた。領域別の正答率は、【話すこと・聞くこと】の正答率が県や全国と比較し、一番差が大きく下回っている。無答率を見ていくと、全10問中4問で0%となっている。他の設問においては、2%程度のものが多い。比較的意欲的に調査に取り組む様子がみられる。しかし、①四は8.2%で②三と③二の設問はそれぞれ10%を超えており、県や全国と比較しても差が大きく見られ、これらの設問の内容については今後も授業内で重点的に取り上げていく必要がある。

（2）数学

全体の結果を正答率に注目して見てみると、山梨県や全国よりやや下回る問題が多かった。領域別にみると「数と式」では、基本的な計算の技能（特に分数）や数量の関係を文字式に表すことが確実にできていないことがあらためてわかった。また領域を問わず、日常的な事象について、特徴を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することがうまくできなかつたり、無解答（答えられないこと）だつたりということがみられた。

（3）英語

全体の結果より、本校は山梨県・全国より下回る正答率であった。領域別にみると「聞くこと」「書くこと」においては小差であったのに対して、「読むこと」に関しての差の開きが大きく、まとまりのある文章を読み取る力が足りないことが分かった。また聞いた英語の内容を理解し適切に返答したり、書かれた内容に関して自分の考えを示したりすることに苦手であったり、全く答えられない様子がみられた。

3 教科における主な改善点

(1) 国語

○本年度の結果から見える本校の課題として「長い文章や複数人による談話を限られた時間内に読み、内容を大枠で把握する力」が不足している点が挙げられる。この力を補うため、授業の中では、教科書教材を使って言語活動を工夫し、要約などの活動を中心に行って、長文であっても全体をとらえる力を高めていく。また対話的な活動を促すために、グループでの交流など適切な学習形態を用いながら、生徒個々の深い学びを狙いつつ、教師は学習の見取りを適切に行う必要がある。

○自己の考えの形成という面において、他者へ向けて発信するという意識が低い点も課題として挙げられる。改善策として、「根拠をどのように示していくのか」という意識を高めていく授業内容が考えられる。自分の意見や考えを形成する上で、文章中や相手の会話から根拠をどのように見つけ、用いていくと他者へ自分の意見を効果的に伝えることができるのかという指導を重点的に行う。その際、生徒自身の自己評価と教師側の持つ評価規準について指導する側が明確に持って授業を行う。

(2) 数学

○問題の意味を読みとり、その意味に基づいて適切に関係を表すができるように授業を行う。

○計算の結果を振り返り、確かめることにより、計算が確実に定着するように授業を行う。

○説明や証明の場面では「用いるもの」とその「用い方」をはっきりとらえさせ表現できるように授業を行う。

○計算、グラフ、作図など基礎基本の定着をするために、授業では教科書などの問題に取り組みせるとともに、ワークやプリントなどの問題を家庭で取り組みせるようにする。

(3) 英語

○主に英語を苦手としている生徒に、人称によって変化する動詞や、過去形などの時制の変化する英文をピックアップし、毎回の授業で英文を作る工夫を行う。

○まとまりのある英文を読み取らせ、概要について Q&A などを行い、英文の内容を掘む活動を取り入れる。

○様々なトピックについて、自分の考えをまとめさせ、それをスピーチやライティングなどの表現活動を行う。

4 質問紙の結果から

割合の高い設問に関しては、山梨県や全国（公立）においても高い割合を示している。しかし本校の回答と比較すると、「朝食を毎日食べていますか」という設問が県より 10.9%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」が県より 11.0% 下回っている。これは「**基本的な生活習慣**」や「**挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等**」に関する事項である。学校と家庭において、食育に関する意識を高める必要があるとともに、学校目標のキーワードである「どんな人になりたいですか？」の問いについて特別活動の時間や道徳の授業などを通して、生徒一人ひとりに考えさせることで、自己有用感を育てていき、自分が周囲の人や社会に対してどのようなことができるのかということ意識づけできるような指導を心掛けていく必要がある。

5 質問紙調査からの改善点

本校の質問紙調査の結果から見える特徴として、「**学習習慣等**」に関する回答割合は他の質問項目と比較すると数値は低くなっている。中でも特に回答割合が低かった質問として「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」「新聞を読んでいますか」の回答については特に割合として低い。本年度、文学館と提携して掲示をして、それを活用した授業を行うとともに、図書紹介などを活発に行ってきた。また、新聞を利用した学習（NIE）や図書館前の新聞掲示も継続的に行っている。本年度、本調査以降にどのように変化したか楽しみであるとともに、より一層、図書館の利用が活発になるように様々な活動を継続発展させたい。加えて、校内研究会でも小集団による学習やホワイトボードを使っての「思考力・判断力・表現力」を高める授業の工夫を推進しており、今後も各教科の学習に加えて、今年度より教科化された「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」また学活や特別活動など、学校全体で生徒個々の生きて働く学力の向上に取り組んでいきたい。